

第1節 人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち

2 男女共同参画社会

～男性と女性が家庭、職場、社会などで互いに協力しながら、同等に参画できるまち

<A 基本計画の目標>

男女が社会のあらゆる分野に同等に参画でき、かつ責任を分かち合う社会の実現をめざします。
 女性に対する相談・自立支援の充実をめざします。
 男女がともに自立し、支え合う地域社会の実現をめざします。
 市民、事業者、行政が連携しながら、男女の多様な生き方の実現をめざします。
 生涯を通じて男女共同参画社会の理解と学習を進めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	50.1 %	58.6 %	52 %	53.5 %	59 %	↑

<C 目標達成に向けた25年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【経営企画部】	自己評価
平成24年3月に策定した「かまくら21男女共同参画プラン(第2次)」前期推進計画(平成24年度～平成28年度)により、男女共同参画の推進に努めました。 一方、審議会等における男女いずれか一方の数が総数の10分の4未満でないとする目標については、平成25年度は達成する審議会は全体の30%に届かない状況です。	△
市民団体と協働で、男女共同参画フォーラムやセミナーの開催、情報紙「パスポート」の発行、女性史の有償頒布を行いました。フォーラムには映画上映等を実施しほぼ満席の参加があり、セミナーも、国連での女性差別撤廃の取組などをテーマとし、多数の参加がありました。かまくらの女性史については、発売以来4,500部以上有償頒布したほか、図書館でも貸出されるなど、数多くの市民の方に読まれています。 25年度については、さまざまな分野から女性の人権や男女共同参画について考える機会をつくり、アンケート調査結果などからも一定の啓発効果があったと考えています。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 8年間(平成18～25年度まで)の取組の評価>

【経営企画部】
平成19年2月に施行された鎌倉市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた事業に取り組みました。 市民ネットワーク「アンサンブル21」と協働で、講演会や研修会の開催、情報誌の発行、女性史の編さんを実施しました。

<E 25年度までの未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】
審議会等における男女いずれか一方の数が総数の10分の4未満でないとする目標に対し、達成する審議会は全体の30%に届かない状況です。主な理由としては、選出母体の役職者に男性が多いことや特定の専門分野に女性が少ないことなどが挙げられています。

<F この分野の取組が含まれる第3期基本計画の施策の方針>

【経営企画部】

分野名	施策の方針名
人権	人権施策の充実

<G F欄の施策の方針における今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

施策の方針名	「かまくら21男女共同参画プラン(第2次)前期推進計画(平成24年度~28年度)」に示す重点事業(「審議会の女性委員の参画率引き上げ」、「女性職員の登用拡大」、「子育て支援体制の充実」など)を中心に事業を推進していきます。審議会については、委員の改選時期をとらえ、選出母体の役職者にとらわれず、女性を委員として推薦していただくなど男女委員数の割合に配慮するよう担当課に求めています。
人権施策の充実	

<H 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	H22年度 目標値	H27年度 目標値
審議会等への女性委員の登用率(+)	市に設置された各種審議会の委員総数に占める女性委員の割合	21.4 %	31.6 %	31.7 %	29.8 %	29.5 %	30 %	40 %
固定的性別役割分担意識(-)	固定的性別役割分担意識を肯定する市民の割合	49.8 %	48.8 %	42.2 %	46.7 %	44.8 %	43 %	33 %

<I 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	6,212千円	5,008千円	5,194千円	6,623千円	3,700千円	3,427千円		
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円	665千円	665千円		
	(負担金等)	50千円	202千円	55千円	665千円	479千円	0千円		
	(一般財源)	6,162千円	4,806千円	5,139千円	5,958千円	2,556千円	2,762千円		
	人員配置数	2.1人	2.1人	2.1人	2.1人	1.1人	1.0人		
	人件費 (B)	19,387千円	18,589千円	18,024千円	18,076千円	8,813千円	8,464千円		
	総事業費 (A+B)	25,599千円	23,597千円	23,218千円	24,699千円	12,513千円	11,891千円		
	対前年比		92.2%	98.4%	106.4%	50.7%	95.0%		

鎌倉市民評価委員会の評価

◎ この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・各種委員会の女性比率が8年間に着実に増加している印象がある。
- ・「まず隗より始よ」か、審議会等の女性の登用率が概ね30%に達したが、審議会、委員会のうちの4割を女性とすることは分野によっては達成しにくい部分もあると予想される。
- ・DV関係の相談時間を拡大するなど相談体制を充実させ、より相談を受けやすくしている。
- ・市民との協働で情報発信や研修会など継続している。男女共同参画フォーラムや研修会の実施、情報誌の発行等男女共同参画の実現に向けた活動を努力して実施していたと思う。
- ・各種委員会における、男女共同参画に対する啓蒙活動により、着実に市民の意識が変化してきている。しかしながら具体的な参画への仕組み作りに対する活動が行われていない。形の上での男女共同参画に向けた取組が進められた感じが強い。
- ・女性の社会進出を促進するために、子育て施設の充実、就労機会の改善、家事分担について行政・事業者・家族の一層の尽力と協力を期待する。

きわめて優れていた：◎
十分であった：○
不十分であった：△

○

◎ 第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

- ・男女が同等に参画でき、かつ責任を分かち合う社会の実現はさらに進むと予想される。女性の力、能力をより社会に活かす機会を拡大する必要がある。
- ・責任ある重要な地位を占める女性を増やすためには、女性の社会進出の道を拓き、裾野を広げることが肝要である。
- ・女性の市政への参画をさらに促進する必要は当然であるが、登用率に留まらず、女性だからこそ活かされる業務や企画の推進が望まれる。
- ・啓発効果があったとの調査結果があるので、今後はそれをいかに行動へ変えていけるのか期待したい。さらに、従来どおりの啓蒙活動に加え、個々の分野における女性参画のための具体的な仕掛けについて、各分野と連携を図り構築する事が必要である。
- ・結果の平等ではなく、機会の平等であることを明確にしておくべきである。

◎ この分野の指標に関する意見

- ・審議会等への女性委員の登用率が目標に向かって着実に増えている。満足度と女性の登用率との相関性は良好であるが、これが満足度の要因となっているかは更なる分析が必要である。
- ・固定的性別役割分担意識が少しずつではあるが、数値が下がってきており、これをさらに下げることが目標であろう。しかし、満足度と固定的性別役割分担意識との相関性は極めて低い。要因は専業主婦論を肯定している人が半数近いことによる。固定的性別役割分担意識はアンケート回答者がランダムな選別なので、年代も偏りがあると思われる。それによりかなり数値が変動するのではないかと思う。
- ・委員会等における男女の参画は分野によってそれぞれ得意・不得意とする所がある。男性が得意とする分野もあれば女性が得意とする分野もあり、一律に40%以上を目指すのではなく、もっと全体での参加率を考慮すべきである。また、男女共同は、男女が参加できる権利を平等にする事であり、女性を優先する事とは別である。鎌倉市民の満足度は8年間で微増ながらも上昇し、市民の意識への影響はあったと思う。登用率も上昇しているが、男女の役割への意識は曖昧な状態であった。

◎ この分野に関する総括意見

- ・男女共同参画は、平和・人権の分野と同様に、男女がそれぞれの良さを活かし協力して家庭を、まちを、社会を作るのは当然のことで、基本目標を横断的に見る視点の1つとして、まちづくりを進める上での土台という位置づけで考えるべきである。
- ・平和・人権分野でも人権施策の充実が掲げられている。難しい面が多いがどう取り組むのか期待したい。
- ・人口減少、少子高齢社会にあつては女性の社会進出が強く求められる。そのためには男女共同参画社会を実現することであり、家庭・事業者・行政に実効性のある連携・協力が強く望まれる。
- ・市も女性企業家の後押しに力を注いで頂きたい。
- ・情報誌「パスポート」、女性史第4集の発行などは市民に十分周知されていない。女性史事業がどのような市民から評価を受けているかなどは不明である。